



発行 / ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン 〒156-0044 東京都世田谷区赤堤4-1-6 生活クラブ生協赤堤館2F HP <https://wnj.gr.jp/>  
 発行日 / 2023年12月 発行責任者 / 藤井恵里

電話 03-6265-7382 FAX 03-6265-7383 Eメール info@wnj.gr.jp



親しくしていた「しいたけ農家」  
のお話をもとに作られた人形劇。

人形劇からは当時の福島で農業に携わっていた人達の悔しさをひしひしと感じました。今でも農業をあきらめざるを得なかつた方々が多くいること、生業を失つた者の心にあい

りかと悲しくなりました。補償金だけでは解決できない憤りで、時間は経つとも変わらない現状があること

を知りました。た穴はいかばかり

12年経つても鮮明にお話される地震の様。その後の原発事故の影響で作った野菜を廃棄しなければならなかつた。それが忍びなかつたゆえに自身で放射線測定を始め、その数値は畠の立地上、低かつたもののその数値を公表しわかつてくれる人に販売に踏み切つたこと、測定を希望する市民に測定をしていたこと、「えすペリ」の始まりをお聞きしました。

震災翌年から始まつた東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合の被災地訪問は今年で12回。昨年度からWNJとの共催企画で被災地を訪れ交流を重ねています。今年は10月27日に福島県田村市・須賀川市・いわき市を11名で訪問しました。



有機野菜や加工品の販売などのお店「えすペリ」は農家の希望の砦とすべく、エスペラント語で「希望する・期待する」の意。

## 第12回東日本大震災被災地訪問 忘れてはいけないもの 被災地訪問交流会に参加して 後藤成美

震災翌年から始まつた東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合の被災地訪問は今年で12回。昨年度からWNJとの共催企画で被災地を訪れ交流を重ねています。今年は10月27日に福島県田村市・須賀川市・いわき市を11名で訪問しました。

大河原伸さん多津子さんのお話と  
人形劇「えすペリ」…田村市

発酵食などの自然療法食レストラン  
「銀河のほとり」…須賀川市



オープンして25周年を迎える「銀河のほとり」店主の有馬克子さんは、身体に優しい食事の実践をされ、広めています。

いわき市「いわき震災伝承みらい館」からみる海。  
職員の方から震災関連資料説明受け展示を見学。



お申込みは  
二次元コードから

詳細は  
WNJホームページ  
をご覧ください

Email: [wnj\\_office@wnj.gr.jp](mailto:wnj_office@wnj.gr.jp)

主催: 第16回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in埼玉 実行委員会



### Information

#### 第16回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 埼玉 いのちと暮らしを守るあたたかな経済

～ワーカーズ・コレクティブで広げよう！社会的連帯経済～

1月20日(土)

全体会

1月21日(日)

自主企画 分科会

1月22日(月)

オプショナルツアー

開催会場 ウエスタ川越  
オンライン併用開催

参加費 ¥3,500

全体会・分科会・自主企画  
(配布資料・後日送付の報告集代金含む)

北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会で、労働者協同組合法人 設立第1号 ワーカーズ・コレクティブまどり

厚労省のホームページ「知りたい! 労働者協同組合」好事例動画の取材を受けました



まどりは北海道札幌市の北星学園女子中学高等学校スミス寮で、1日3食寮生の食事を作っています

「まどり」はイタリア語でお母さんたち

2023年3月16日に労働者協同組合を設立し7か月が経過しました。

取材をお受けするにあたり事前資料として、まどりの団体紹介や活動内容をまとめた書類を提供しました。その中で私自身も「協同労働」の魅力について再認識することができ、事業存続のために労協法人を立ち上げられて良かったと改めて感じました。

また、受託先の北星学園女子中学高等学校、スミス寮の舍監の先生や寮生さんにも取材にご協力頂けたこと、まどりメンバーが積極的にインタビューを受けてく

労働者協同組合ワーカーズ：コレクティブまどり好事例動画

れたことはありがたかったです。

この動画が新たに労働者協同組合の取得を考える団体の参考になり、またワーカーズ・コレクティブという働き方を広めるきっかけとなれば光栄です。さらにまどりメンバーの励みとなり、学校やスミス寮のためにより一層お役に立てれば嬉しいです。

(労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブまどり代表 野口洋子)

原材料を厳選し、無添加の調味料、遺伝子組み換えをしていない北海道産、国産食品を基本に使い、手作りの味を提供しています。



堅苦しい漢字ばかりが並ぶこの組織が何をする所なのか、始めは全くピンときませんでした。私達には、「生活協同組合」と「労働者協同組合」が最もなじみ深く、農協、漁協、森林組合までは理解できます。しかし、日本にはたくさんの協同組合があり、医療福祉生協、県民生協、厚生生農業協同組合連合会などは、どんな事業をするのかすぐにはわかりません。このよくな様々な協同組合の連携組織がJCAはJCAの会員です。

4つの事例報告から学ぶ

福井県民生協による社会参加型「ティサー・ビス」「B・L・G」では、認知症の方が主体的に自分たちで話し合って決め、役割を見つけて仲間と共に行動しています。家庭事サポートを通じた地域課題の解決を行う労働者協同組合ワーカーズ・コレクティブ「lavoir」は、利用者と働く人は、「たすける」・「たすけられる」という関係ではなく、対等に「たすけあう」お互い様の関係をつくることが協同組合らしいケアであると提起しています。

JJA山梨厚生連は、「がん教育」が小学生から高校生まで必修と定められたので、外部講師として出前授業に出向き、子どもや家庭、地域に健康意識の向上やがん検診普及の活動を行っています。

【(社)日本協同組合連携機構】とは

地域共生フォーラムは、JCA【（一社）日本協同組合連携機構】が主催で年に一度開催されています。今回は10月14日、愛知と茨城にサテライト会場が設けられ、久しぶりに集まつて学習する場が出来ました。

暮らしを支える多機能的な取り組み、労働者協同組合「一力一ズコ」（ちばでは、「不登校の子を持つママたちが集まつて何でも話せる喋り場を作り、そこから「癒しのマルシェ」に発展していきました。また、不登校をテーマにした映画の上映をクラウドファンディングで実現したり、不登校生動画選手権の表彰式の運営チームになつたりと、どんどん活動が広がつていいき、その中でボランティアスタッフだつた人が組合員となつて働く人が生まれています。

**キーワードは協同組合間連携**

後半は、ブループに分かれて交流会が開かれ、私は茨城サテライト会場に集まつた11人とテーマに沿つて意見交換をしました。「協同組合間連携」がキーワードとなり、「協同組合ネットいばらき」の活動として今後取り組みたいことも出てきました。有意義でした。

協同組合は行つてゐる事業も様々ですが、お互いに得意分野を生かし協同できたら、地域がもつと住みよくなるだろうと思いました。普段は自分たちの事業で手一杯ですが、時には他の業種の方と接することは大事だと思えた一日でした。

※BLGは日本で初めて社会参加型デイサービスを実現した、全く新しい加盟型認知症共創コミュニティ。

## 第5回 協同組合の地域共生フォーラム みんなで幸せに暮らせるまちづくり



愛知サテライト会場ではリアルで  
グループワーク